教職開発研究　第３号　2020　11－20

望ましい職業観を育てる中学校道徳科の授業開発

―「個人性」の視点を育てる教材の検討 ―

平岡　春香・宮里　智恵

Developing Classes of Moral Department of Junior High School
who Foster Desirable Occupational Values
― Considering Teaching Materials for Fostering Viewpoint of “Personal Aspect of Occupation” ―

Haruka HIRAOKA and Tomoe MIYASATO

Abstract: The purpose of this research is to inspect the effect of the teaching materials to foster viewpoint of “Personal aspect of occupation” in the moral department of the junior high school. These teaching materials describe people who self-actualize through occupation. To achieve this purpose, the author conducted a class to 2nd grade students by using an existing teaching material. The author conducted a survey to inspect the effect of this class before and after the class. The survey asked students their occupational values. There was no difference of students’ descriptions between before and after the class. It made clear the need to develop teaching materials students can remark “Personal aspect of occupation”. Based on this need, the author developed teaching materials by interviewing to two workers. The author conducted the class with this teaching materials. As a result of this survey, students’ descriptions which are related to “Personal aspect of occupation” increased. According to this result, this class contributes to foster viewpoint of “Personal aspect of occupation”.

Key words: Desirable occupational values, Special subject morality, Lesson development, Personal aspect of occupation, Teaching materials
キーワード：望ましい職業観，特別の教科道徳，授業開発，個人性，教材

１．研究の背景と問題の所在

1-1　研究の背景

（1）現代の若年労働者の職業観

平成28年版 情報通信白書（総務省, 2018）によると，2030年には我が国の人口のうち65歳以上の人口が３割に達すると推定される。生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向にあり2030年には人口の半数程になることが推定されている。よって今後10年間，我が国の若年労働者が自らの生産によって支えていくべき国民の数がますます増加していくことが予測される。

厚生労働省（2018）による「新規学卒就職者の離職状況」調査では，就職後３年以内の離職率は大学卒新規就職者で1990年半ば以降，一貫して３割で推移している。高校卒新規就職者では，調査開始以来一貫して４割から５割で推移している。若年者労働者の離職率が社会的に注目され，労働者の仕事をすることへの意識が問われる昨今であるが，若年労働者の職業観はどのようなものなのだろうか。

公益財団法人日本生産性本部及び一般財団法人日本経済青年協議会（2019）は平成30年度の新入社員に対して調査を行っている。調査の結果として，新入社員が会社を選ぶ時に重視したものは「能力・個性が生かせる」,「仕事が面白いから」の順に高く，これらの選択肢は1971年以来緩やかな増加傾向にある。働く目的についての質問では,「社会の役に立つ」という選択肢の選択率は平成24年以降減少に転じている。

このように，社会の変化と共に労働者の職業観は様々に変容しているものの離職率は依然として高いままである。今後の社会で仕事をする労働者には充実した職業生活を送ることができるような，より一層望ましい職業観が必要となってくるのではないかと考える。

1-2　問題の所在

（1）職業観について

職業観については多義的に用いられることが多い。例えば，広井（1962）は職業観の概念について４つ挙げている。１つ目に「職業認知のしかたとしての職業

観」，２つ目に「生活全般への価値観のひとつの表明としての職業観」，３つ目に「職業の社会的価値評価としての職業観」，４つ目に「職業が個人に対してもつ直接的な有用性に対する価値観としての職業観」である。また，学校教育に関するものの一例として，国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）は，職業観を「人それぞれの職業に対する価値的な理解であり，人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識」と規定している。これらを参考に本研究では，職業観を「職業が個人に対して持つ有用性（意義や役割）についての価値的な理解や認識」と捉え，扱うこととする。また,「勤労観」や「労働観」は「職業観」と同義として扱われやすいが，本研究においてはそれらとは区別する。

また，職業選択時や職業に適応する際の職業観の重要性は先行研究においても述べられている（例えば柴山ら，1984；磯野，1973；浦上，2015b）。その重要性に鑑み，義務教育段階からの職業観の育成が必要なのではないかと考える。

（2）望ましい職業観とは

これからの社会で児童生徒が充実した職業生活を実現していくためには，どのような職業観を持つことが望ましいのだろうか。

ここで着目したいのは，尾高（1995）による職業の定義である。尾高（1995）は職業を「個性発揮，連帯実現及び生計維持の三面よりなる行動様式」と述べている。また，尾高（1995）は職業の各側面について次のように述べている。第一に，個性発揮の側面について「人びとは職業を通じてもろもろの文化を産出し，これによってたがいに寄与し合う。しかるにこのことは，各人がそのもっとも得意とするところを発揮することによってのみ可能である。（中略）職業とは人間がその個性を発揮して他に寄与するところの活動である」と述べている。第二に，連帯実現について「各人はそれぞれ一定の社会的分担をもっている。この分担を果たすことは各人に課せられた任務である。そしてこの任務の遂行が職業にほかならない。（中略）職業をして職業たらしめるものは役割の実現である」と述べている。第三に，生計維持の側面について「職業とは衣食の資を得るための継続的な人間活動である。(中略）すなわち職業生活は，ここでは主として享受の生活である」と述べている。

尾高による職業の定義について，キャリア教育という視点から考察を行っているのが白木(2010)である。白木（2010）は先に述べた尾高（1995）の論について「職業の理想形態は，『経済性』・『個人性』・『社会性』の三要素のバランスの上に成立し，また，いずれが欠けても職業と定義することはできないということを示唆している」とまとめている。それに加え,尾高(1995)も以上に述べた三つの側面について「いずれも一面を見てその全面を見ていないこと，あるいは一面を強調するあまりにそれを以て全面と混同している」ことに注意すべきであると述べている。

つまり，この尾高（1995）の職業の定義に則ると，職業の意義や役割というものを捉えていく上で,「経済性」「個人性」「社会性」の全ての側面の必要性や重要性を認識することが望ましいと言える。

浦上（2015a）は，尾高（1995）の論に則り大学生の職業観について研究を行っている。浦上(2015a)は,「経済性」「個人性」「社会性」の各側面に対する重要度の認識において三側面が同程度,もしくは「経済性」が他二側面よりも低い場合，職業不決断傾向が弱くなることを研究で明らかにしている。

浦上（2015a）の研究からは，進路決定や職業選択を迫られる現代の中学生や高校生，そして大学生には三側面のうち特に「個人性」「社会性」の必要性の認識が重要であるということが言えるだろう。職業観における職業の「個人性」「社会性」の側面の重要性の認識を学校教育，特に義務教育段階である，中学校においてより一層促していく必要があるのではないだろうか。

（3）職業の「個人性」への着目

厚生労働省（2013）が行った「若年者雇用実態調査」によると，若年労働者が初めて務めた会社を辞めた理由は選択数の多い順に以下の通りである。

１位　労働時間・休日・休暇の条件が良くなかった
２位　人間関係が良くなかった
３位　仕事が自分に合わない

上位二つについては，若年労働者本人によって解決することは困難である可能性が高い。しかし，３位の「仕事が自分に合わない」という問題は，若年労働者が自分の能力や特性を発揮できる職業の選択や，やりがいを見つけ，職業適応することができれば解決することが可能であると考えらえる。それらを実現していく上で，大切な視点となってくるのは，上述の職業の三つの側面のうち特に「個人性」の側面であると言える。若年労働者の実態を踏まえた上で，中学校教育では特に職業の「個人性」の視点を育成することが必要なのではないかと考えた。尾高（1995）の論に則った上で，本研究における「個人性」を「自らの能力や特性を発揮し，社会に寄与するという職業の一面であり，

職業を通した自己実現」と規定し，中学校教育における「個人性」の視点の育成を志向する。

（4）キャリア教育における「個人性」の位置づけ

学校教育において，職業観の育成の中核を担っているものとしてキャリア教育があげられる。文部科学省（2011）は,「中学校キャリア教育の手引き」において，キャリア教育において育成を目指される「社会的・職業的自立，学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力の要素」として，５つの要素を挙げている。「中学校キャリア教育の手引き」を参考に各要素についてまとめたものが表１である。

表１　「社会的・職業的自立，学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力の要素」とその説明（筆者まとめ）

要素	説明
意欲・態度及び価値観	生涯に渡って社会で仕事に取り組み，具体的に行動する際に極めて重要な要素。
基礎的・基本的な知識・技能	「読み・書き・計算」等の基礎的・基本的な知識・技能を習得することは，社会に出て生活し，仕事をしていく上で重要な要素。
基礎的・汎用的能力	分野や業種に関わらず，社会的職業的自立に向けて必要な基盤となる能力
論理的思考力，創造力	物事を論理的に考え，新たな発想等を考え出す力。
専門的な知識・技能	個々人の個性を発揮することに繋がる。

表１の５つの要素のうち，職業観は「意欲・態度及び価値観」に含まれる。キャリア教育では，勤労観・職業観の「望ましさ」の要件が規定されている。その一つに「どのような職業であれ，職業には生計を維持するだけでなく，それを通して自己の能力・適性を発揮し，社会の一員としての役割を果たすという意義があること」が挙げられている（文部科学省，2011）。これは，先ほど述べた尾高（1995）の職業の三つの側面と類似した意味合いを持つものであると言える。なかでも「個人性」については「自己の能力・適性を発揮し，社会の一員としての役割を果たす」という部分とほぼ同義であると言える。このことより学校教育におけるキャリア教育でも「個人性」の育成が望ましさの一部として定められていることが分かる。

（5）中学校道徳科における「個人性」の位置づけ

「中学校キャリア教育の手引き」において「意欲・態度及び価値観」は,「学校における道徳をはじめとした豊かな人間性の育成を通じて形成・確立」することが求められている。また,「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」（文部科学省，2018）にもキャリア教育との連携を図る必要性が示されており，さらに，内容項目には関連性の高い項目「勤労」が設けられている。内容項目Ｃ「勤労」の内容は「勤労の尊さや意義を理解し，将来の生き方について考えを深め，勤労を通じて社会に貢献すること。」である（文部科学省，2018）。これらのことから，道徳科を通した職業観の育成が求められていると言える。

道徳科の内容項目Ｃ「勤労」における「内容項目の概要」では,「人は職業に意味を求め，自分の能力や個性を生かして自らの内面にある目的を実現するために働くという職業を使命として捉える考え方もある」ということが示されている（文部科学省，2018）。この部分は，尾高（1995）の述べた職業の三つの側面のうち「個人性」の側面を示すと言える。このように中学校道徳科においても，職業の一つの側面として「個人性」の視点の育成が求められているのである。

しかし,「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」には，内容項目Ｃ「勤労」の指導について,「自分の職業選択においては，自分の好みを優先させ，勤労を通して社会貢献する中で得られる成就感や充実感にまで考えが及ばない生徒も多い」とある。そのためか，３社分（学校図書，光村図書，廣済堂あかつき）の中学校道徳科の教科書を概観したところ，Ｃ「勤労」の教材には職業の「社会性」の側面に注目しやすい内容のものが多く,「個人性」の側面に注目しやすい内容のものは少ない。

尾高（1995）の論に則れば，職業を通して自らの最も得意なことを発揮することこそが，最大限に社会貢献していくことに繋がるのである。つまり，自分の能力や特性を発揮することも職業において重要な価値があり,「個人性」の側面にも注目しやすい道徳教材が生徒にとって必要なのではないかと考える。

２．研究の目的

中学校道徳科において，職業を通して自分の能力を生かし社会に寄与する人の姿が描かれた教材を用いた授業を実施し，生徒の「個人性」の視点を育成することへの有効性を検討する。

3．研究の方法

3-1　研究仮説

中学校道徳科において，職業を通して自分の能力を生かし社会に寄与する人の姿が描かれている教材を用いた授業を実践することで，生徒の「個人性」の視点を育成することができるだろう。

3-2　調査方法

道徳科内容項目Ｃ「勤労」の授業を実施する。授業実践の前後で次のアンケートを実施し，生徒の職業観のうち「個人性」の認識の変容を見取る。

（1）自由記述式アンケート

「仕事（社会人として働くこと）は何のためにするのでしょうか。」という問いについて自由記述式で回答を求める。生徒が職業の意義についてどのような考えを持つか把握することを目的としている。

（2）選択式アンケート

國眼ら（2013）が用いたカードソート法による，職業観調査を参考にし，アンケートを作成する。「あなたが仕事を選ぶ時に大切にしたいこと」を問い，「大切にすることカード」として,「経済性」「個人性」「社会性」のそれぞれについて２項目に６つのダミー項目を加えた計12個の選択肢を呈示する(表２)。そのうち，大切にしたいことを上位３つ選択させ，選択した理由も併せて記入するよう教示する。生徒が数ある職業選択の基準の中で何を重要視しているのかを把握することを目的としている。

表２　「大切にすることカード」12項目の内容と分類

選択肢	分類
安定した生活が送れるくらいのお給料がもらえること	経済性
高いお給料がもらえること	
自分が人として成長できること	個人性
自分の能力や好きなことを生かせること	
社会の役に立てること	社会性
人に喜んでもらえること	
有名な職業であること	無
職場が家から近いこと	
制服がかわいい･かっこいいこと	
体力的に楽であること	
働く時間が短いことや決まっていること	
仕事仲間の仲が良いこと	

4．実施授業①

4-1　授業の概要

日　時	2019年６月26日～６月28日に各学級１時間ずつ
対　象	Ｈ県Ａ中学校　　２年Ａ組24名 ２年Ｂ組24名　計48名
主　題	仕事をする喜び［Ｃ勤労］
ねらい	レジ打ちの女性が自分の弱さを乗り越え，仕事を続けていく中で仕事の素晴らしさに気付く姿を通して，仕事には自己を成長させたり，人の役に立ったりすることで得られる喜びがあることに気付き，自身の将来の職業選択について広い視野で考えていく意欲を育成する。
教　材	「あるレジ打ちの女性」（出典：「中学道徳　あすを生きる3」日本文教出版）
授業者	平岡春香

4-2　授業の構想

（1）主題設定

職業の三側面のうち「個人性」に注目できるような授業を行う。本授業では，職業を通して自分自身が成長し，人の役に立つことで得られる喜びがあることに気づかせ，生徒の「個人性」の視点を育成することを志向し，主題設定を行う。

（2）教材の選定

本授業において用いた教材「あるレジ打ちの女性」（出典：「中学道徳　あすを生きる３」日本文教出版）では,主人公が自身の得意なことを職業に生かしたり，職業を通して自己を成長させたりする姿が描かれている。また，主人公は職業を通して人の役に立てることに気付くという描写も含まれている。これらの場面からは職業の三側面のうち，「個人性」について学ぶことが可能であると考える。

（3）指導過程における工夫

指導過程においては次の点を工夫する。

１時間の授業を貫く課題「人はなぜ仕事をするのだろう。」を導入後生徒と共に設定し，本授業１時間を通して，職業の意義や役割について考えることへの意識の方向付けを行う。

展開前段では，教材の主人公の女性の心情の変化を心情曲線として描き，それを追いながら仕事に対する思いの変化を把握できるような発問を設定する。物語前半ではピアノ演奏の能力を生かして仕事をする場面，そして物語の後半からはお客さんの役に立つことに喜びを感じ，涙する場面から，「個人性」を捉えさせる。

展開後段では，「個人性」の側面に注目できるような幼稚園教諭の実話を用いて教師が説話を行い，職業の「個人性」の側面はどの仕事にもあるものだということを理解させる。

4-3　結果と考察

(1) 自由記述式アンケート

生徒の回答を「経済性」「個人性」「社会性」の三側面毎に分類した。「自分のため」「やりたいことをするため」等の「経済性」とも「個人性」とも受け取ることが可能であるものを不明とし，「名誉のため」「人とコミュニケーションをとるため」等のどの側面にも分類し得ないものを「その他」とした。各側面に関する記述の出現回数を以下の表３に示す。

表３　実施授業①　各側面の記述数

	授業前	授業後
個人性	13	12
経済性	50	57
社会性	39	42
その他	10	14
不明	11	13

「経済性」及び「社会性」については，授業後に記述が増加している。それに対し，「個人性」についての記述は，授業後殆ど変化は見られなかった。

(2) 選択式アンケート

生徒が職業を選ぶ際に大切にしたいこととして上位３つに選択した項目を集計した。「経済性」「個人性」「社会性」の各側面の選択数を以下の表４に示す。

表４　実施授業①　各側面の選択数

	授業前	授業後
個人性	34	34
経済性	36	33
社会性	22	28
その他	37	34

個人性に関する選択肢については授業後選択数に変化がなかった。「経済性」についても同様に大きな変化は見られなかったが，「社会性」については授業後に選択数が増加していた。

「個人性」についての生徒の回答をより詳細に見ていくため，項目ごとで選択数を見ていく（表５）。

表５　実施授業①「個人性」に関する選択肢の選択数

項　目	事前	事後
自分が人として成長できること	8	14
自分の能力や好きなことを生かせること	26	20

「自分が職業を通して成長できること」という選択肢については，授業後に選択数が増加した。それに対し，「自分の能力や好きなことを職業に生かせること」という項目については減少した。

(3) 授業用ワークシート

生徒が実施授業からどのようなことを学び，どのような影響を受けているのかを見取るため，実施授業において用いたワークシートの記述を分析した。

授業における「人はなぜ仕事をするのだろう。」という課題について授業で学んだことを踏まえて生徒が記述したものを以下に示す。

【生徒Ａの記述】
生活をするためと，その仕事を通しての人と人のつながりができて，誰か役に立ちたいため。

生徒Ａは授業を通して，職業の意義について生活をするという「経済性」，誰かの役に立つという「社会性」の二つの側面から記述をしている。それに加え，人と人のつながりができるという職業の付加価値的な面について触れている。生徒の半数以上が生徒Ａのように「経済性」と「社会性」の両方またはいずれか一つの側面からの記述をしていた。

【生徒Ｂの記述】
自分の成長とお金をもらうのと人との関係を良くすることです。

生徒Ｂは授業を通して，職業の意義について自分の成長という「個人性」，お金をもらうという「経済性」の二側面から記述している。それに加え，人との関係を良くするという職業の付加価値的な側面について触れている。生徒Ｂのように「個人性」の側面から職業の意義について記述している生徒は全体の約３割であった。

生徒Ａ，Ｂのように「人とコミュニケーションを取ること」や「職業を通して多くの人と出会うこと」という趣旨のことを職業の意義として記述している生徒が全体の約３割いた。

（4）考察

結果を受けて，実施授業①は「個人性」の視点を育成することに大きい効果はないことが明らかとなった。

本授業は，「個人性」の「職業を通して自らの個性を生かす」「職業を通して自らを成長させる」ことの価値の理解を促すよう意識し授業づくりを行ってきた。しかし，授業において生徒は「個人性」の視点に着目することができず，むしろ「社会性」の視点に着目したことが見て取れる。

この要因のひとつとして，授業で用いた教材が挙げられる。本授業で用いた「あるレジ打ちの女性」は，「個人性」の視点から読むことのできる教材と判断したものの，生徒のワークシートへの記述には「個人性」についての記述が少なかった。本教材では，主人公がお客さんに「このおねえさん（主人公）と話をするためにここ（職場）へ来ているんだ。」と言われ泣き崩れる描写がある，この場面から生徒は「個人性」ではなく，職業を通した「人との関わり」や職業の「社会性」の重要性を感じ取ったと考えられる。

この教材の持っている性質が「社会性」や「人との関わり」であったことに対し，教師の意図は「個人性」視点の育成であり，それらが一致していなかったために生徒の「個人性」の視点を育成するに至らなかった可能性が考えられる。

この課題の解決に資するため，より生徒が「個人性」の側面に注目することができるような教材を開発し，それを用いて授業を行う必要があると考えた。

5．実施授業②

5-1　授業の概要

日　時	2019年11月８日～11月11日に各学級１時間ずつ（８月の職場体験活動後）
対　象	H県A中学校　　２年A組24名 ２年B組24名　計48名
主　題	仕事をする喜び［C勤労］
ねらい	A町で働く人の仕事に対する思いや仕事をする中での喜びに触れることを通して，人によって仕事にかける思いは様々であるが，職業には自分の能力や個性を生かして社会に寄与するということで得られる喜びがあることに気付き，将来自分自身も職業を通して自己実現していくことへの意欲を育成する。
教　材	「A町で働く人たち」（自作教材） ※資料①参照
授業者	平岡春香

5-2　授業の構想

（1）主題設定

職業の三側面のうち「個人性」に注目できるような授業を行う。本授業では，職業には自分の能力や個性を生かして社会に寄与することで得られる喜びがあることに気付かせ，生徒が職業に就いて考える際の個人性の視点を育成することを志向し，主題設定を行う。

（2）教材の作成

実施授業①での課題を踏まえた上で，実施授業②では，職業の「個人性」の側面にも焦点化することが可能となるよう意識し，教材の開発を行う。教材には，A中学校周辺地区であるA町で働く二人の方を題材として取り上げることとし，仕事に関するインタビューを実施する。

当初，A氏（A町まちづくりセンター館長 男性）のみにインタビューを行う計画であった。実際にインタビューを実施したところ，A氏は強い郷土愛を仕事の熱意へと繋げている方であり，この方のみを教材にした場合，自分の能力や特性を生かし仕事をするという「個人性」の部分を生徒が捉えきれないことが懸念された。そこで，B氏（A町認定こども園保育士 女性）にも追加でインタビューを行うことにした。

インタビュー内容は主に①仕事をする上で大変さを感じる場面，②やりがいを感じる場面，③今の仕事を選択した理由，④仕事をする上で大切にしていることである。二人の方のインタビューへの回答を以下の表６に示す。特に②③については，「個人性」に注目させる上で重要な質問と捉えて行った。

表６　インタビューにて実施した質問とその回答

	A氏 （館長）	B氏 （保育士）
①大変さを感じる場面	1人勤務の日の事務所での利用者さんの対応。	人と接する仕事なので，想像や理想通りにはいかないことと行事の前の準備。
②やりがいを感じる場面	町民の方々と協力して無事町内行事を終了することができた時の達成感。	園児の成長する姿や頑張る姿を目にしたとき。
③今の仕事を選択した理由	A町に育てられたので恩返しがしたいから，退職後再任用を希望して今の仕事に就いている。	小さい頃からの夢だったから。小さい子の面倒を見ること，工作をすることが得意だったから。
④大切にしていること	笑顔で利用者さんと接すること。他愛もない会話をしてコミュニケーションをとること。	常に笑顔でいること。子どもに大人の考えを押し付けないこと，型にはめようとしないこと。

表６に示したインタビューへの回答には，自身の得意なことや自分らしさを生かした職業に就き，社会に貢献することでやりがいを得ているという「個人性」の側面が表れていると言える。

（3）指導過程における工夫

指導過程においては，次の点を工夫する。

一時間を貫く「仕事をすることの魅力は何だろう。」という課題を導入後生徒と共に設定し，本授業１時間を通して，職業を通して得られる喜びについて考えることへの意識の方向付けを行う。

展開前段では，自作教材を用いる。その際に，Ａ氏の仕事に対する思いや喜びと，Ｂ氏のそれらを比較し共通して出てくる「（Ａ町・子どもが）好き」，「（利用者さん･子どもたち）のため」といった共通したキーワードを強調することで，「個人性」に着目させる。

展開後段では，生徒たちが８月に参加した職場体験を想起しエピソードを交流し合う活動を行う。お客さんに喜んでもらった経験や事業所の人たちの役に立った経験を語り合うことで，教材で学んだことについて自分自身のことと関連付け，共感させる。

5-3　結果と考察

（1）自由記述式アンケート

生徒の回答を「経済性」「個人性」「社会性」の三側面毎に分類した。「自分のため」「やりたいことをするため」等の経済性とも個人性とも受け取ることができるものを不明とし，「名誉のため」「人とコミュニケーションをとるため」等のどの側面にも分類しえないものをその他とした。各側面に関する記述の出現回数を以下の表７に示す。

表７　実施授業②　各側面の記述数

	授業前	授業後
個人性	14	20
経済性	41	39
社会性	36	33
その他	6	8
不明	11	8

「個人性」についての記述は授業後に増加が見られた。それに対し「経済性」や「社会性」についての記述は殆ど変化が見られなかった。

（2）選択式アンケート

生徒が職業を選ぶ際に大切にしたいこととして上位３つに選択した項目を集計した。「経済性」「個人性」「社会性」の各側面の選択数を以下の表８に示す。

表８　実施授業②　各側面の選択数

	授業前	授業後
個人性	34	34
経済性	36	33
社会性	22	28
その他	37	34

「個人性」に関する選択肢については授業後選択数に変化はなかった。「経済性」についても同様に大きな変化は見られなかったが，「社会性」については授業後に選択数が増加していた。生徒の職業観における「個人性」の重要性には，変化がなかったように見られるが，選択された「個人性」に関する選択肢の選択順位の変動はあったのだろうか。そこで，「個人性」に関する各選択肢の１位から３位までに選択された回数を授業前後で比較した。縦軸を選択された回数，横軸を順位として，授業前後の各順位の選択数を棒グラフに示した（図１，２）。

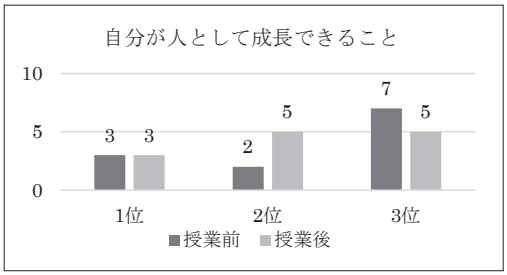

図１　個人性に関する選択肢①　各順位の選択数

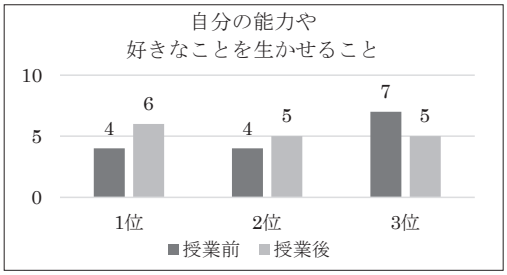

図２　個人性に関する選択肢②　各順位の選択数

「自分が人として成長できること」については，授業後に２位に選択された回数が授業前で２回，授業後で５回と増加している。

「自分の能力や好きなことを生かせること」については，授業後に１位に選択された回数が授業前で４回，授業後で６回と増加している。これらのことから，「個人性」に関する項目の選択順位が上昇していることが分かる。

さらに，職場体験活動後と授業後の生徒の「個人性」の視点がどのように変容しているのかを詳細に見取るため，職場体験後（８月20日）の調査と授業後（11月13日）の調査の各項目における選択数を比較した(表９)。

表９　実施授業②　各項目の選択数

	項　目	職　場体験後	授業後
個人性	自分が人として成長できること	12	13
	自分の力や好きなことを生かせること	12	16
経済性	安定した生活が送れるくらいのお給料がもらえること	21	20
	高いお給料かもらえること	5	5
社会性	社会の役に立てること	10	11
	人に喜んでもらえること	15	16
その他	有名な職業であること	0	1
	職場が家から近いこと	6	5
	制服がかわいい・かっこいいこと	0	0
	体力的に楽であること	1	4
	働く時間が短いことや決まっていること	7	6
	仕事仲間の仲が良いこと	15	8

「個人性」に関する選択肢の選択数はいずれも増加している。特に「自分の力や好きなことを生かせること」についての記述は４ポイント増加しており，これは全ての選択肢のなかでも最も大きい増加である。

(3) 授業用ワークシート

生徒が実施授業からどのようなことを学び，どのような影響を受けているのかを見取るため実施授業において用いたワークシートの記述を分析した。

授業終末で「あなたはどのように働いてみたいと思いましたか。」という質問について，授業で学んだことを踏まえて生徒が記述したものを以下に示す。

【生徒Ｃの記述】
自分の得意なこと，好きなことをいかして，人の役に立てるような仕事について楽しみながら働いてみたいです。

生徒Ｃは授業を通して，職業の「個人性」の側面に着目し，職業を通して自己実現することに対して意欲を持っている。生徒の約２割が生徒Ｃのように,「個人性」に着目した記述をしていた。

【生徒Ｄの記述】
人の役に立って社会をより良くする仕事。

生徒Ｄは授業を通して,職業の「個人性」のうち「自分の能力や特性を発揮する」という視点に比べ,「社会に寄与する」という側面により強い意欲を持っている。生徒Ｄの様な記述をしている生徒は全体の約２割であった。

【生徒Ｅの記述】
自分の好きなこと，得意なことを生かせたり，楽しみながら難しい仕事も働いてみたいとおもいました。

生徒Ｅは授業を通して,職業の「個人性」のうち「社会に寄与する」という視点に比べ,「自分の能力や特性を発揮する」という側面により強く意欲を持っている。生徒Ｅのような記述をしている生徒は全体の約３割であった。

(4) 考察

結果を受けて，実施授業②は「個人性」の視点を育成することに一定の寄与があることが明らかとなった。本授業は「個人性」のうち，特に「職業を通して自分の能力や個性を発揮し，社会に寄与すること」の価値の理解を促すよう意識し授業づくりを行ってきた。授業を通して「個人性」の視点が育成され，その価値的な理解を促す一助となり得ることが示唆された。

この要因として，授業で用いた教材が挙げられる。実施授業①の課題の解決に資するため，実施授業②ではより一層「個人性」の側面に注目することのできるような教材を開発した。教材でインタビューに回答しているＡ氏（館長）とＢ氏（保育士）の両者ともがそれぞれに自分の得意なことを生かし，思いを込めてその仕事を選択している姿を明確に描いた。そのため，実施授業①と比較して「個人性」のうち「自分の能力や特性を発揮する」という面に生徒が注目しやすかったことが考えられる。

また，要因の一つとして，授業を実施した時期が考えられる。実施授業は職場体験活動を終え，文化活動発表会に向けその成果をまとめている時期であった。職場体験活動で学んだことに価値づけをし，お客様に感謝される等の具体的な体験と結び付けることで,「個人性」の重要性を認識したことが考えられる。

ただ，授業後に「個人性」のうち「自分の能力や特性を発揮する」ことのみに注目している生徒も３割程度いた。これは,「中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編」でも懸念されているように,「自分の職業選択においては，個人の好みや経済性を優先させ，勤労を通して社会貢献する中で得られる成就感や充実感

にまで考えが及ばない」ということに繋がりかねないと言える。「自分の能力や特性を発揮すること」が,「社会に寄与すること」に繋がるということをより一層強調し，理解を促していく必要性が明らかになった。

6．まとめと今後に向けて

本研究においては，中学校道徳科の教材に注目し，職業の三つの側面のうち「個人性」の育成への有効性を検討してきた。

実施授業①では，道徳科教科書に掲載されている教材のうち,「あるレジ打ちの女性」を用いて授業を実施した。「あるレジ打ちの女性」では,職業の「個人性」の具体的な姿にあたると考えられる描写があると判断し，用いた。しかしながら，教材の持つ「社会性」という性質と教師のねらいが一致しなかったことにより，実施授業①は「個人性」の視点を育成するに至らなかった。

実施授業②では，実施授業①での課題を踏まえ，教師のねらいと教材の性質の一致を目指し，より「個人性」の側面に注目できるよう意識し,教材を開発した。A 中学校が在籍する町で働く二人の方々に，仕事に関するインタビューを行った上でその内容を教材化した。その結果，授業後の生徒の記述に「個人性」に関するものが増加し，実施授業②は生徒に「個人性」の視点を育成することに寄与した可能性が明らかとなった。

以上の実施授業での成果及び課題を踏まえた上で，今後は教材のみならず，主題設定や指導の工夫等の授業構成にも着目し,「個人性」の視点の育成により有効な中学校道徳科の授業を検討していく必要がある。

また，実施授業②では職場体験活動を終えた生徒に対し道徳科の授業を行った。これにより，職場体験活動で学んできたことを道徳科の授業がより深める効果が示唆された。これを踏まえ，生徒の職業観を育成することを志向した職場体験と道徳科を関連付けたプログラムの作成も今後検討していきたい。

謝　辞

本実践を進めるにあたり，ご協力をいただいた A 中学校の先生方,生徒の皆様に深く感謝申し上げます。

引用・参考文献

広井甫（1962)「職業価値観の研究：展望と考察」職業科学，３，69-87

磯野義一・玉瀬耕治（1973)「へき地における中学生の職業興味と職業観,奈良教育大学教育研究所紀要」９，99-104

國眼眞理子・松下美知子・苗田敏美（2013)「キャリア発達・教育に関する研究（13）－中学生の人生観および職業観－」日本教育心理学会発表論文集，35(0)，354

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/sinro/1hobun.pdf（2019年11月27日最終閲覧日）

公益財団法人日本生産性本部及び一般財団法人日本経済青年協議会（2019）平成31年度 新入社員働くことの意識調査結果
https://activity.jpc-net.jp/detail/add/activity001566.html（2019年11月27日最終閲覧日）

厚生労働省（2013）平成25年若年者雇用実態調査の概況
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/4-21c-jyakunenkoyou-h25.html（2019年11月27日最終閲覧）

厚生労働省（2018）新規学卒就職者の離職状況（平成27年３月卒業者の状況）を公表します
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/ 0000177553_00001.html（2019年11月27日最終閲覧）

松尾直博ら（2019)『輝け未来　中学校道徳』学校図書

文部科学省（2011）中学校キャリア教育の手引き
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm（2019年11月27日最終閲覧日）

文部科学省（2018)『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』教育出版

尾高邦雄（1995)『尾高邦夫選集 第１巻 職業社会学』夢窓庵

柴山茂夫・林文俊（1984)「大学生の職業観の構造について（序報）－工科系学生を対象とした予備的検討－」愛知工業大学研究報告，第19号 A，１－９

白木みどり（2010)「キャリア教育にかかわる価値観形成についての一考察」上越教育大学紀要，29，75-86

総務省（2018）平成30年版 情報通信白書
http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/index.html(2019年11月27日最終閲覧日)

杉中康平ら（2019)『中学校道徳　きみがいちばんひかるとき』光村図書

浦上昌則（2015a)「大学生の職業観と職業不決断－尾高（1941）による職業の定義に基づいた職業観の把握－」南山大学紀要『アカデミア』人文・自然科学編，第９号，41-56

浦上昌則（2015b)「中高校生時代のどのような生活経験が大学生の職業観に影響するのか」南山大学紀要

『アカデミア』人文・自然科学編，第10号，31-44
横山利弘ら（2019）『中学生の道徳　自分を見つめる』
廣済あかつき

資料①

『A町で働く人たち』

★A町まちづくりセンター

地域のまちづくりを担う、まちづくりセンターの館長さんにインタビューをしてきました。

平岡「まちづくりセンターではどのようなお仕事をされているのですか。」

館長「まちづくりセンターでは主に次の三本柱で仕事を進めています。一つ目は、地域の方にまちづくりセンターの部屋を貸し出す貸館業務。二つ目に安全に町づくりセンターを使っていただくための建物のメンテナンス。三つめは、地域の町内行事のサポートをする事務局支援業務です。」

平岡「館長さんが仕事をする上で気を付けていることは何ですか。」

館長「利用者さんと笑顔で接することですかね。それと、挨拶だけでなく一言声をかけることは意識しています。天気のことや、気温のこと、利用者さんが通っている講座について等、事務的にならず利用者さんと信頼関係を築くためにもそれらのことは大切しています。」

平岡「館長さんは長い間この仕事をなさっているのですか。」

館長「いえ、二年前まではA町市民センター長として働いていました。六十歳になり定年退職を迎えましたが、再びまちづくりセンターの館長として勤め始めました。」

平岡「退職後、余暇を楽しむ方も多くおられると思うのですが、なぜ館長さんはあえて働き続けようと思ったのですか。」

館長「正直なところ、働かなくてもお金には困りません。それでも、まちづくりセンターの館長として働き続けようと思ったのは、やはりA町に恩返ししたいからですかね。私はA町出身で現在もA町に住んでいます。人は家族だけでなく、町に育てられると思っています。ここまで人のために働くことができる理由は、故郷で働いているからなのかもしれません。」

平岡「館長さんが、仕事をする上でやりがいを感じるのはどんな時でしょうか。」

館長「そうですね。地域の行事をA町の地域の方々が中心となって進め、そのサポートをまちづくりセンターがするのですが、無事に行事が行われ、お客さんがたくさん来てくれた時は嬉しいですね。行事の後の打ち上げで、地域の方々と交流する時に『みんなでやり遂げたんだ』という何とも言えない一体感と達成感があり、この仕事のやりがいを感じますね。」

★認定こども園A町

A町の多くの子どもたちが通園している、認定こども園A町の年中クラスの先生にインタビューをしてきました。

平岡「認定こども園ではどのようなお仕事をなさっているのですか。」

先生「認定こども園では食事や着衣といった基本的生活習慣の自立をうながすこと、文字の練習や折り紙などの教育も行っています。子どもの精神的な安定はもちろんのこと、不安を抱えた保護者の方々のサポートを行うことも認定こども園の役割の一つです。」

平岡「先生がこのお仕事に就かれた理由を教えてください。」

先生「この仕事は、小さい頃からの夢でした。自分自身、子どもの頃は保育園にあまり行きたくないと感じていましたが、年長の時に担任をしてくれた先生がとても素敵で、憧れていたんです。それと、年下の子どもと遊んだり、面倒をみることが好きだったのと、折り紙を折る等の物を作ることも好きなのでこの仕事に就き、今まで続けてきました。」

平岡「先生が仕事をする上で大切にしていることは何ですか。」

先生「子どもたちは先生の表情をよく見ています。そのため、実践するのはなかなか難しいのですが、常に笑顔でいることはすごく大切だと思います。そして、子どもが『明日も来たい！』と思えるようなクラスにすることを意識しています。子どもの元気な『先生、また明日ね～！』が聞けると嬉しいですからね。」

平岡「先生が仕事をする上で大変だと思うことは何ですか。」

先生「保育士は人と接する仕事なので、時には想像もつかないことを子どもがしたり、思い描いた理想通りにいかないことも多いということです。そして、発表会等の行事の前は一年間で特に忙しいです。子ども達が帰っていった後にも、行事を成功させるため一生懸命準備に取り組んでいます。」

平岡「先生が仕事をする上でやりがいを感じるのはどんな時でしょうか。」

先生「子どもたちが今までできなかったことをできるようになったり、頑張っている姿を見ることができたときにはやりがいを感じます。『大きくなったなあ』と嬉しく思うんです。家で嫌なことがあっても、認定こども園に来て、子どもたちに会うといつの間にか忘れて、元気が出るんです。綺麗ごとではなく、本当に子どもたちには人を元気にするパワーがあるんだと思います。」